ラルジャン（1983）

L’ARGENT

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス／スイス
色彩 Color
時間 85分
初公開日 1986/11/29
公開情報 フランス映画社
リバイバル 1995/06［フランス映画社］

【解説】

小遣いに不足したブルジョワ少年が親に無心して断られ、借金のある友人に弁解に行くが、友人は彼に偽札を使ってお釣りをくれればいいと唆す。彼らはその札を写真店で使い、まんまと企ては成功。偽札をつかまされた店の主人夫婦は、これを燃料店への支払いに使う。結果、その従業員イヴォンが気付かず食堂で使って告発された。彼は写真店を訴えるが、店員ルシアンの偽証で責任を負わされ失職する。ルシアンは商品の値札を貼り替えて、差額をかすめ取っていたが、見つかって解雇される。だが、その掌中には店の合鍵が。一方、イヴォンは知人の強盗の運び屋をし、未然に逮捕され三年の実刑を受ける。その間に愛娘が病死、妻の心は彼を離れる。それを中傷した同房の者を殴ろうとしてやめるイヴォン。独房送りで毎夜支給される睡眠薬を溜め、自殺を図るが未遂に終わる。やがて、写真店を荒し逃げ回っていたルシアンが入所してきて、赦しを乞い、見返りに脱獄の誘いをするが、イヴォンはこれに乗らず、おとなしく刑期を終える。出所して泊まった安ホテル。ここで彼は主人夫妻を惨殺し、はした金を奪って逃走。ある村の裕福な農家の家事一切を引き受ける中年の女の世話になる。夫を失い、車椅子の息子と老いた元ピアノ教師の父と、姉夫婦一家と暮らしている健気な彼女は、事情を知ってもひたすら彼をいつくしみ、彼との語らいの時を持つが……。たぶんに『罪と罰』への傾斜を感じさせる内容で、現代の神、交換の魔法－－金（ラルジャン）の真意を探る。

【クレジット】

監督	ロベール・ブレッソン	Robert Bresson
製作	ジャン＝マルク・アンショ	
製作総指揮	アントン・ガネージ	
原作	Ｌ・Ｎ・トルストイ	L.N. Tolstoy
脚本	ロベール・ブレッソン	Robert Bresson
撮影	エマニュエル・マシュエル	Emmanuel Machuel
	パスクァリーノ・デ・サンティス	Pasqualino De Santis
音楽	バッハ	
出演	クリスチャン・パティ	Christian Patey
	カロリーヌ・ラング	
	バンサン・リステルッチ	
	マリアンヌ・キュオー	Marianne Cuau

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.